

令和5年度業務運営懇談会議事要旨

1 日 時：令和5年5月16日（火）10：00～12：00

2 場 所：独立行政法人農林水産消費安全技術センター本部7階大会議室
（さいたま市中央区新都心2-1さいたま新都心合同庁舎検査棟）

3 出席者

◎座長

木内 岳志 独立行政法人農林水産消費安全技術センター 理事長

○外部有識者

阿久澤 良造 日本獣医生命科学大学 名誉教授（Web参加）

川上 和久 麗澤大学 教授（Web参加）

川島 知之 宮崎大学 農学部 畜産草地科学科 教授

立石 亮 日本大学 生物資源科学部 アグリサイエンス学科 教授

戸部 依子 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 消費生活研究所 所長（Web参加）

森光 康次郎 お茶の水女子大学 生活科学部 食物栄養学科 教授

與語 靖洋 公益財団法人 日本植物調節剤研究協会 研究所 技術顧問

（五十音順 敬称略）

○説明者等

都築 伸幸 理事

功刀 豊 理事

高橋 秀一 理事

中野 隆史 監事

服部 夕紀 監事

須永 善行 情報システム・セキュリティ統括官

浅野 正博 有害物質等分析調査統括チーム長

田熊 秀行 企画調整部長

畑中 明 総務部長

中田 直 規格調査部長

長谷 亮一 認定センター所長

石橋 大彦 表示監視部長

嶋崎 洋子 肥飼料安全検査部長

入江 真理 農薬検査部長

4 議事次第

- (1) 開会（理事長挨拶、出席者紹介）
- (2) 議事
 - ・令和3年度業務実績に係る評価
 - ・令和4年度業務運営懇談会委員からのご意見への対応状況
 - ・令和4年度プロセス評価対象の取組紹介と業務実績自己評価の概要
 - ・令和5年度目標及び事業計画の紹介
- (3) 全体を通じた委員との意見交換
- (4) 閉会

5 質疑応答

(1) 令和3年度業務実績に係る評価

質疑なし

(2) 令和4年度業務運営懇談会委員からのご意見への対応状況

外部有識者

<資料2 SDGs への貢献について>

ダイバーシティ&インクルージョンの取組について、エクイティも含めて活動しているとのことで、非常に良いと考える。

外部有識者

業務報告書でSDGsへの貢献についてマッピングの形でまとめられており、読む方にとってわかりやすく良いと考える。このような取組を、引き続き行っていただきたい。

(3) 令和4年度プロセス評価対象の取組紹介と業務実績自己評価の概要

①肥飼料関係業務

外部有識者

<資料3-2 No.1 農林水産省委託事業への協力業務について>

顕微FT-IRは高価であるが、現場への導入はどのように行うのか。

説明者

現場に機械を導入して鑑定してもらうことは想定していない。今回、顕微FT-IRは、実証事業の中で堆肥化条件での生分解プラスチックの分解状況を確認するため用いたもの。なお、事前にご質問いただいた分析法については、鑑定対象が生分解性であるため前処理は行わないATR法（全反射法）を用いた。

外部有識者

<資料3-2 No.2 農林水産省要請業務（技術力向上への支援）について>都道府県職員の参加者は18名とのことだが、都道府県の分析担当者に対する割合はどれくらいか。参加する都道府県について何か傾向はあるか。また、外部精度管理試験結果の解説を希望する声が多かったとのことだが、令和5年度の計画に反映されているか。

説明者	外部精度管理試験はすべての都道府県に対して参加必須なものではなく、肥料分析への意識が高い都道府県が参加したと考えるが特に傾向はわからない。令和5年度は、要望を踏まえて実地研修を予定している。外部精度管理試験の結果解説については、実地研修とは別対応にはなるが引き続き実施していきたいと考えている。
外部有識者	外部精度管理試験の成績が二極化しているとのことだが、研修に参加した都道府県はそのどちらかなどといった傾向はあったか。
説明者	外部精度管理試験の成績に関係なく、希望する都道府県に参加いただいている。研修の質疑応答の中で、都道府県の課題、改善すべきところなどを引き出し、助言できたと考える。
外部有識者	研修を行った結果として、分析能力の二極化がどの程度解消されたのか、気になるところ。
説明者	具体的な成果はこれからとなる。令和5年度以降も継続して取り組むことで分析能力の改善を確認していきたい。
外部有識者	都道府県の職員は異動が多く、また、分析機器の変更もあるので、継続する必要がある。また、オンラインと対面の併用は重要であると考えている。
外部有識者	<資料3-2 No.5 特定添加物の検定及び表示の業務について> 自己評価書及びポンチ絵について、マニュアルどおりに粛々と検査を実施した結果とも読めるように思われる。説明で、原体の安定性に問題があったことを突き止めたと聞いて納得したので、追記する等工夫してはどうか。
説明者	通常よりも対応が難しい事例であったが、職員の努力や適確な対応により原因究明まで結びつけたことも踏まえA評価とした。ご助言を踏まえ、ポンチ絵は見直していきたい。
②農薬関係業務	
外部有識者	<資料3-2 No.4 農薬の登録審査に付帯する業務> 東南アジア諸国の分析能力はどの程度向上しているのか。
説明者	経済状況が悪い国ほど、分析能力が低い傾向にある。ほかの国からも技術移転の要請があり、今後も継続していく必要があると考えている。
外部有識者	近年は、機器が高度化しているため、基礎を知らなくても分析ができてしまう状況だが、基礎理論を理解することは重要だと考える。

外部有識者	動画教材を作成した国際貢献は、今後評価されていくべきであると考え る。自動翻訳ソフト等を活用し、英語以外の言語でも動画教材を作成する と良いのではないか。
③表示監視業務 外部有識者	<資料 3-2 No.6 食品表示の科学的検査等業務について> 緊急要請への対応は、知識や技術の積み上げがあって達成できることで あり、日頃の準備の成果であると考え。他機関との情報共有を通して産 地表示の適正化につなげていただきたい。
説明者	分析技術については、研究機関等から情報提供いただいたり、共同研究に よる分析法の開発等に取り組んでいる。引き続き、分析技術の維持、向上 に努めていきたい。
④JAS 関係業務 外部有識者	<資料 3-2 No.7 農林水産省からの緊急要請業務について> 国内で違反があった場合には罰則があるかと思うが、このような輸入関 係での違反の場合、再犯防止の観点からどのように対応していくか何か 考えはあるか。
説明者	現在は JAS の登録を認証している海外の機関に対して調査を行うなど、 対応している。今後の対応については、農林水産省と相談しながら決めて いきたい。
⑤総務関係業務 外部有識者	<資料 3-2 No.11 業務運営コストの削減について> 電気料金の引き上げに関して、節約等、コストの削減による対応は大事だ が、一方で経常利益を上げていくことは何か考えているか。
説明者	取組は行っているが、収益の増加につなげるのは難しい状況。引き続き、 収益の増加に向けた取組を検討していきたい。
外部有識者	業務量が増加している中、コスト削減だけでは限界があるのではないか と考える。削減するだけでなく、予算を確保することも検討したほうがよ いのではないか。
説明者	昨年度は、予算が決定した後に電気料金の引き上げがあったため、予算要 求にて対応することができなかった。今後は、この点を加味した予算要求 をしていきたいと考えている。

説明者 FAMIC の予算は単年度決算のため次年度に当期総利益を繰り越すことができない。また、検査を止めることができないため、実験室の電気を切るのは難しい。コスト削減も限界に来ており、予算要求で対応していく必要があると考えている。

(4) 令和5年度目標及び事業計画の紹介

質疑なし

(5) 全体を通じた委員との意見交換

外部有識者 大学生などの若い人はネットでよく調べものをするが、ネット上では間違った情報もあるため、他組織でも誤解されていることがある。昨今の話題のチャット GPT も含めて、ネット上でどのように FAMIC が捉えられているのか、偏った情報で表現されていないかなどをモニタリングしていく必要がある。また、女性職員の比率が増加しており、女性にとって魅力的な職場であることを、数字を伴ってアピールしていくことが重要だと考える。

外部有識者 職員のキャリアアップや国際化に関して、職員の海外留学や国際機関への JPO の仕組みを利用した派遣制度があると良いと考える。また、豚熱の発生に関連して、肉を使用したエコフィードの加熱基準が厳格化されて以降、該当事業者は確認届を提出する必要があるかと思うが、確認届を提出していない事業者はリスクが高いため、これらの業者をチェックする仕組みがあれば良いのではないかと考えている。消費・安全局と相談してほしい。

(6) 閉会

理事長 自己評価については、委員の皆様にご覧いただいたポンチ絵では伝わっていない部分があると感じた。よく伝わる形でしっかりとアピールしていきたい。ご意見のあった若手職員のキャリアアップや国際化に関する取組としては、ASEAN の事務局へ職員を派遣したり、JICA の関係で専門委員を職員が務めたりと、若手職員、女性職員が中心となって海外への情報発信等を行っている。また、分析機器の高度化により簡単に分析ができってしまう現状において、分析技術の基礎的な部分を伝えていくことが重要であるということを確認した。動画の作成についても力を入れており、ウェブ等を通して FAMIC の魅力や、女性を含め若い方にとって魅力的な職場であることをしっかり伝えていきたい。